

2003年6月23日

No.25

又市征治 国政だより

又市征治事務所
発行責任者 谷岸 孝士
富山市下新町 4-27
TEL 076-441-0800
HP: www.s-mataichi.com

国会大幅延長 「イラク派兵法」持ち出す

国会は150日という国会法の規定を超え、7月28日まで40日の延長を強行。イラクに自衛隊を出す新法案など、有事法制のさらなる拡大に向かっている【別紙又市声明】。こうした中、16日、又市議員は決算委の今期しめくくり質疑に臨んだ。



決算委で小泉・塩川・片山3大臣を追及 「離れでスキヤキ」特別会計の乱脈を突く

又市議員はまず01年度決算の全体につき「二度の補正をしてなお巨額の歳入欠陥を作った。小泉総理就任以後、十分に時間があつたのに、公共事業偏重で、失業・雇用対策を怠り、景気をますます悪化させた」政治責任を指摘。つづけて「私は今期の決算委を通じて、『特別会計』の形をとった各種の会計操作が、財政の実態隠し、巨額の国費の損失、損害を生んできたことを毎回指摘してきた」と総括した。

そして塩川財務大臣に「あなたが『母屋でお粥を食っているのに離れではスキヤキを...』と言った通り、国民には一般会計で財政を乏しく見せながら、特別会計では乱費と不明朗が目立つ。今年中に数の整理統合、特定財源の囲い込み解除ができるか」と迫った。塩川氏は「十分目が届いていなかった。審議会で検討している」と逃げ。

続いて小泉総理に、「財政審議会の小委員会でも私と全く同じ意見が出ている【下記参照】。今の特別会計システムは国民に国の財産や事業が全く見えない。官僚のやり放題で、天下り先まで保証している。その財源になっているのが一部の特別会計だ。小手先の会計操作の見直しではなく、存立意義まで踏み込んで、国民に説明責任を果せる、簡素で明解な特別会計に整理せよ。」とただした。総理は「一般会計に比べて余り厳しく国会でも審査せず透明性に欠ける。財務大臣の「離れでスキヤキ」発言はいかに問題が多いかという表現だ。歳出改革は特別会計も当然で、全面的に見直す。御指摘も踏まえ、より徹底した見直しに政府挙げて努力する」と答弁した。

【又市議員の例示した特別会計の実態】

産業投資特別会計、電源開発特別会計などから天下り法人等へ「出資」という名で国家資金を出し、巨額の欠損(基盤技術センター2800億円、情報処理振興協会530億円、核燃料サイクル機構2兆3000億円など)。治水特別会計など公共事業は、一般会計・産投特会・自治体負担など複数の財源でやっている。特会を廃し、地方と同様に一般会計の一事業として透明化すべき。

地方財政は「あばら家」か？ 税源移譲先行、交付税堅持で財源自立を

続く午後の部で又市議員は片山総務大臣に「〈母屋・離れ〉論が国の財政なら、地方財政は〈あばら家〉だ。なのに、塩川氏は布団まで剥ぐように補助金削減を先行させ、税源移譲は7割という。あなたは反対したと聞くが、どのように進めるつもりか。」と問い、片山氏は「国の基準でやる事業は全額を税源移譲するのが当然だ」と答弁。又市議員は小泉総理にも「地方財源自立の改革へ、イニシアチブを発揮せよ」と迫った。